

いただきます

銅駝学区

小 吹 和 男

かねて私は、人間の御都合のみを考
えたあまりにもひどい自然環境破壊
と、それによって起こるであろう生物
への悪影響について、危懼を感じ続け
ておりました。

そんな中から、日本自然保護協会の
自然観察指導員として、「自然保護
感普及」の「種を播く」ボランティア
活動に参加するようになって、もう二
十年になります。

さて二十一世紀を迎え、発心した当
時に比べて、自然保護の意識は人々の
常識となり、又、小学校でも教えるよ
うになったという大きな成果を得られ
た事は誠に喜ばしく思っています。
しかし、まだまだ油断が出来ないの
は、世界のリーダーを自認するアメ
リカがCOP3、京都議定書を批准し
ていない事実があるからです。それ
は、現在の経済機構が、自然を人間の
私物視する考えの上に成り立って来た
からです。

私は、そんな現実をふまえて、人類
に最も求められている真の自然保護思
想の原点を、広く人々へ伝えるために
考え出した一言を、本稿の表題にしま
した。

その理由は、即ち、人間を含めて、
全ての生物は、他の生物を互いに食べ
合ねば生きられないという厳しい現
実を自覚して欲しいからに外ありませ
ん。私達は、そんな生命の輪の中の一
員なのですから、食前の「いただき
ます」本意は、私達の食事のために生
命を失った食材の命に対しての感謝の
意味を表しているのだといはれていま
す。ここで借越ながら、読者諸氏がラ
イオンに喰われる時の事を想像してみ
て下さい。我々の食材は全て、例えば

お米であれ野菜であれ、ビール酵母、
鶏、はた又、魚であれ、一生を全う出
来ずに死を迎える苦悩を、それぞれ経
験しているはずで。

お釈迦さまは、飢えた虎に我が身を
与えるというたとえ話で、この生物の
悲しい宿命と、地球上で共に生き合う
生物への愛を語っておられます。しか
し、そこまでは行かないまでも、この
「いただきます」の心への御理解があ
れば、地球上の生物が、お互いに生き
合うため又、お互いを守り合うため自
然保護を、毎日の生活の中で、例えば
無駄な消費をつつしむとか食べ残しは
しない等の実際行動として生かして頂
けるのではないかと考えております。

大先輩の皆様方を前になまいきを申
上げましたが、私の二十年間にわた
る活動上の信念の吐露としてお許し下
さい。

さて、私はそんな活動の中から知識
を生かして、我々の銅駝学区内にあっ
て、中京区には珍しい鴨川の豊かな自
然環境の中で鴨川みそそぎ会の源氏ホ
タル増殖活動へ参加して、そのノウハ
ウを担当してきました。

以来、担当行政の大きな御協力もあ
って、十五年にして、昨、平成十五年
六月に始めて「乱舞」するという成果
を得る事が出来ました。夏の夜、人々
の心を神秘的な光でいやしてくれるホタ
ル見物に、是非、お出まし下さいます
よう御案内申し上げます。

本年は四月十九日の雨の夜に、幼虫
が多数川から上陸して、サナギになる
ため土へ入ったのを確認しましたので
六月上旬には羽化する事をお約束出来
ます。

場所は一条大橋西詰を上がった所、
銅駝美芸高校に面したみそそぎ川(高
瀬川の上流)です。高瀬川にも点々と
見られますので御期待下さい。

脊の女性

朱六老人クラブ
女性部長

社会見学と昼食
五月十七日 月曜

特定非営利活動法人 NPO 自然観察指導員京都連絡会々々
〒603-8162 京都市北区区小山東大野町15 西川 忠樹方
Tel&Fax 075-451-4672 e-mail mikkosan@nifty.com
ホームページ http://www.noi-kyoto.com/

財一交
見学で
。定され
。日
。十時
、近
ありま
たのは
保存さ
宿泊所
小川家
の二
です。
敷の部
檜板張
床下は
塗り固
めてあ

下部を空洞にする
るための創意工夫
囲の間
四畳半の茶の間
網代張りて釘を使
げるとい変わった
の裏にも人が隠れ
いる。
廊下には巾約二
の小さな階段があ
げて棚のように見
言ふ時にはこれを

NO.47 2007/2/22 西中 (3) 36号